

No. 490【2022年1月21日配信】

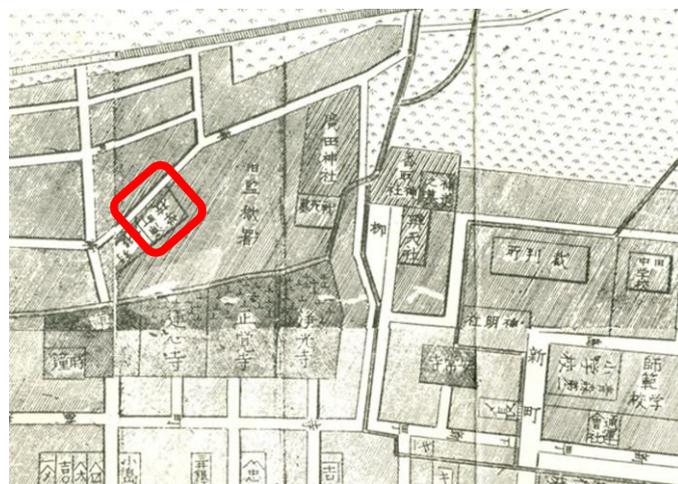
浦町尋常小学校の校舎 (担当:鈴木美香)

こんにちは！歴史資料室の鈴木です。

歴史資料室では、4月12日まで「学び舎の思い出—学校旧跡めぐり」の館内展示を行っています。ただし、青森市民図書館は、1月24日から2月28日まで新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館しますので、この期間は展示をご覧いただくことはできません。

今回は、この館内展示から浦町尋常小学校の校舎をご紹介します。

この浦町尋常小学校は、現在の浦町小学校の前身ではありません。浦町村立の学校として明治10年(1877)に開校し、当時は現在の旧線路通りと平和公園通りの交差点附近にあったといわれています。その後、数度の移転を経て明治25年の時点では現青森市役所本庁舎の東側に校舎がありました。そして、浦町村が明治30年に青森町に合併し、翌年に市制施行されたことで、浦町尋常小学校は青森市立の学校となりました。



現在の市役所付近にあった浦町尋常小学校
(1892年「青森実地明細絵図」より)

やがて、就学率が上がるにつれ、市内の各小学校は校舎が手狭になってきました。そこで、浦町尋常小学校は明治35・36年の継続事業として新校舎を建築することになりました。場所は、現在の青森中央郵便局のところで、当時まだここは田んぼだったそうです。

明治35年の秋に土地の買収が完了しましたが、冬も間近であったのと、この年は豪雪・冷夏と悪天候が続いて大凶作になったこともあり、工事は翌春に持ち越されました。そして、明治36年7月に校舎が完成、8月初めに落成式および開校式が開かれました。この新校舎は規模も設備も十分なものだったらしく、開校式の挨拶で三浦千代次郎校長は「地方の校舎としては稀有のもの」だと言っています。



現在の青森中央郵便局付近にあった浦町尋常小学校
(1911年「青森市全図」より)

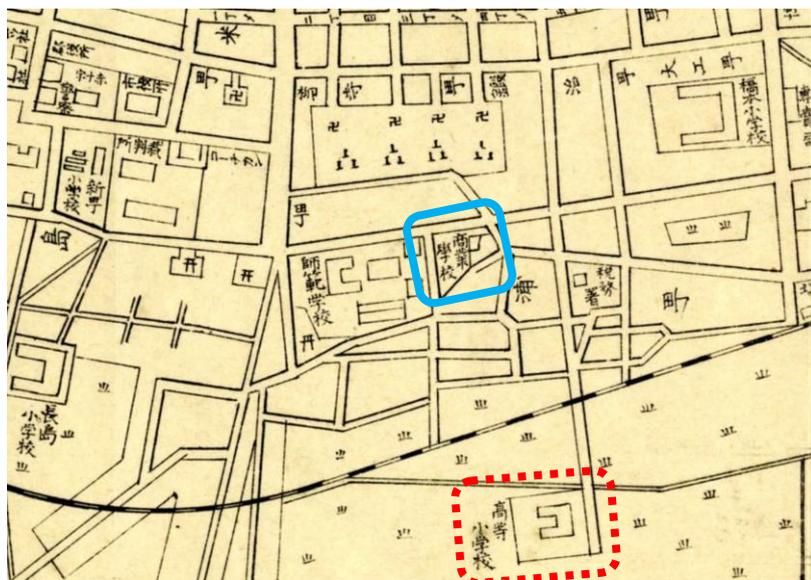
浦町尋常小学校が新校舎に移ったのち、旧校舎はどうなったのでしょうか。

明治36年は、前年の大凶作で米の値段が高騰し、市内には生活に困窮する人が多くいました。そこで、市ではこうした人々を救済するため浦町尋常小学校の旧校舎を授産工場として使用することにし、そこで蔓物細工などの仕事を与えました。

その後、明治40年からは青森市立商業学校(現県立青森商業高校)が、同44年に合浦の新校舎に移るまでこの校舎を使用しています。

一方、新校舎は大正2年(1913)3月に、大正3年度に開校する青森県女子師範学校附属小学校の校舎として使用されることが決まります。ところが、この決定の直後の大正2年4月、青森県師範学校(男子の師範学校)附属小学校が、浪打の新校舎建築の遅れから行き先がなかったため、この校舎を使用することになりました。そこで、浦町尋常小学校は、青森高等小学校に併置されることになり、児童は橋本尋常小学校と青森高等小学校に分かれて授業を受けることになりました。

大正2年9月21日、浦町尋常小学校の創立10周年記念式および記念運動会が合浦公園で開催され、また青森市公会堂で祝賀会も行われました。そして翌3年3月15日、最後の卒業式が挙行され、浦町尋常小学校はその歴史を閉じたのでした。



市立商業学校(青枠)と青森高等小学校(赤枠)の位置
(1911年「青森市全図」より)